



田喜庵寫



田

喜

草の序やふきこ軍のすく有
 多屋も月ゆると路や梅のむ
 野風の薫くきよさむるさく良来
 すきくよ人をふけさやと法の麻
 く杯立て鳴や慥の一一きく
 泣くあこい小僧うらうめ花
 麦の穂も海もあややい鳴き雀
 苗代は猫乃口さすけさくぬ
 おうろろやまんまうはるの春
 大梅 得甚 一具 碩高 暁河 松竹 有月 丁知 麻交

鈴のりやひさもさく清り麦
 屋平も出ぬうちう梅の鳴うか
 きくうてて鳥のさか平一麦うぬ
 二麻ぬらうな屋あひの華きこえり
 さかしのあや澄るまのほる秋
 鯉口の歌うう鳴るやま川の急
 畑うつ人のけささすほ架うも
 親きめ酒うてき鳴り五かよ小来
 まう立てふきこい水る小池うぬ
 大梅 得甚 一具 碩高 暁河 松竹 有月 丁知 麻交
 榮静 小圃 一樓 春騷 文昇 玉山 英山 倚岳 爐扇

壁よりけさけや 雲のまゝの水も流 加賀 年結

鶴も下を鴨ハ立たり 英以賀川 夕うすし 多代女

ふ場へ使へり 越后 子のな哉 万里

旅のりあり 下総 ちりみ山ふ 斗石

字刺して耳も 成之 夕な白蝶より菊

夕旅も とも雄 夕なふ 路向

山里や余 鳩羽 余を 味

くや 信六 家内 葛古 する 事

象 雉啄 象の 花 雲 花

恒 阿字 恒 阿字 恒 阿字

負 茅磨 負 茅磨 負 茅磨

桜 鳳石 桜 鳳石 桜 鳳石

相 歩大 相 歩大 相 歩大

解 午撰 解 午撰 解 午撰

番 嵐月 番 嵐月 番 嵐月

お 窮因 お 窮因 お 窮因

あ 鹿太 あ 鹿太 あ 鹿太

後 壺半 後 壺半 後 壺半

あ 壺半 あ 壺半 あ 壺半

あ 壺半 あ 壺半 あ 壺半

あ 壺半 あ 壺半 あ 壺半

そよ風と川のむらめゆ柳うか

下毛

二子雄

碓も雲も流るむの急川戸

下毛

苞竹

とれもや津出しく時よお

嵐島

ふおりのけりふさふさの雨

一秋

くさきくさきふらふら素の枝

田中

文窓

柳秋の中も花のへは

霞囀

遠帆や入るるを

雪堂

深山意や波のくさくさ

素考

傾城のくさくさ

吉沙波

あふ〜と柳〜の〜

信長

可厚

美草やあ〜あ〜あ〜

一概

くさくさや沖のふさふさ

叢

蒼〜〜〜日よ

白菟

ま〜〜〜や

上毛

夏流

橋〜〜〜

呼牛

夕陰やむの〜

永保

ま〜〜〜田〜

皎雪

ま〜〜〜に

下毛

桐雨



余方母

初まふよちりしつゝもささし 子松亭 上総 政二

まぶさもふはる人形 梅の花 千瓢

苗代やふし せきいへてふくはきり 麥圃

海苔藻のうらやゆき海柳う南 紫麦

うらむさよきさき 霧のはけしうね 捲之

邪魔よきぬ地まの極やう先の家 石二

お梅や原登さつん 女 二

本塚まの覚悟ちうま 藤の雨 幸雄

草々まのいおわよ ちまのてふまはうは 古友



赤小豆粥 後ふてんきく 暮の月 荷乙

この雨もふらぬい鳥の極の雨 雨槿

あふらんまふまの ちけいふはのち 十武

白厚の葉まの 入しりの流素 竹ま

梅まのま せきいへてふくはきり 何は 三吉

まふまの ちまの ちまの ちまの 平こ

まのちろ 子日ある 美さう 素 斗末

まのちろ ちまの ちまの ちまの 桂雨

まのちろ ちまの ちまの ちまの 碓嶺

本のみとくぞんむるやを流の雨 氷瓶

市人よもまきして懐り出せけり 怡兮

かく遣さぬもそぞろに 多希志

七くけや離してくもむる 葛守

きよふの目ゆきを色はとほきう 兔園

ねれも田りもくうよ 柳田の部

とよのまじりや日くれのむら 公孫美

ふ獨り吹くをねれ 月葉

日れさぬもへくやま 禾木

出遠しよおは日のまき 春詠

浩しくもいまそのかよ宿やまの雪 紫月

そはの自嵐よ茅そくい 斗水

あつとるー雨標もあつる 大南

あつとるーつとるもつとる 歡月

白く流ふつとるも 暗山

あつとるの標やはとる く免女

水くくの羽をりあつとる ち免女

あつとるのあつとる 産物

春のうけよ 霞々々 せしすも 毛
暮のほふ 名や 雨のふり けり 宮

斗 是
應 々

乙未春

天保



